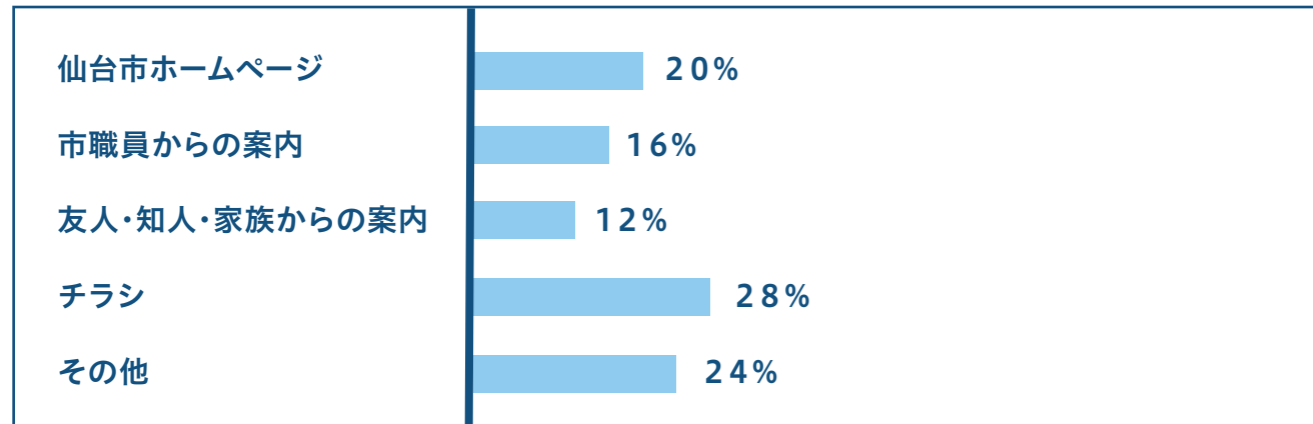


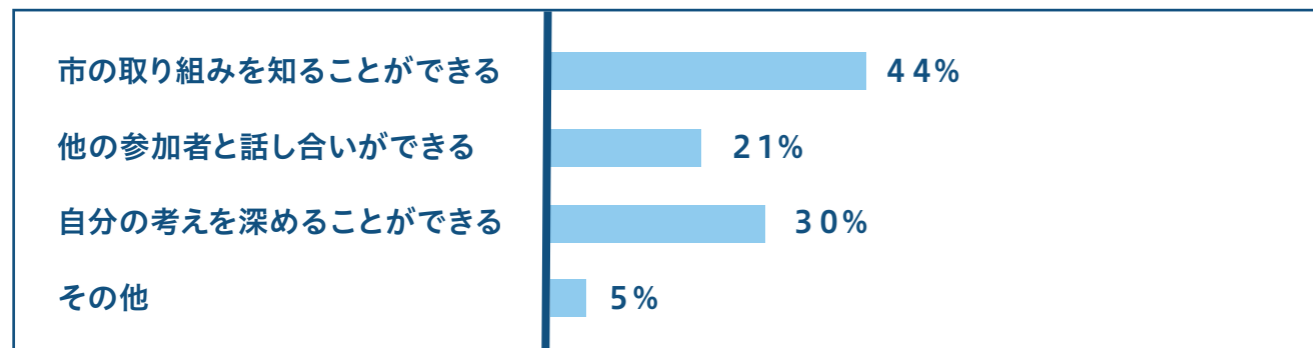
チャレンジ発見!  
**みんなのせんだいめぐり** 2022

「チャレンジ発見!みんなのせんだいめぐり2022」  
 参加者アンケート 集計結果

このイベントをどこでお知りになりましたか。

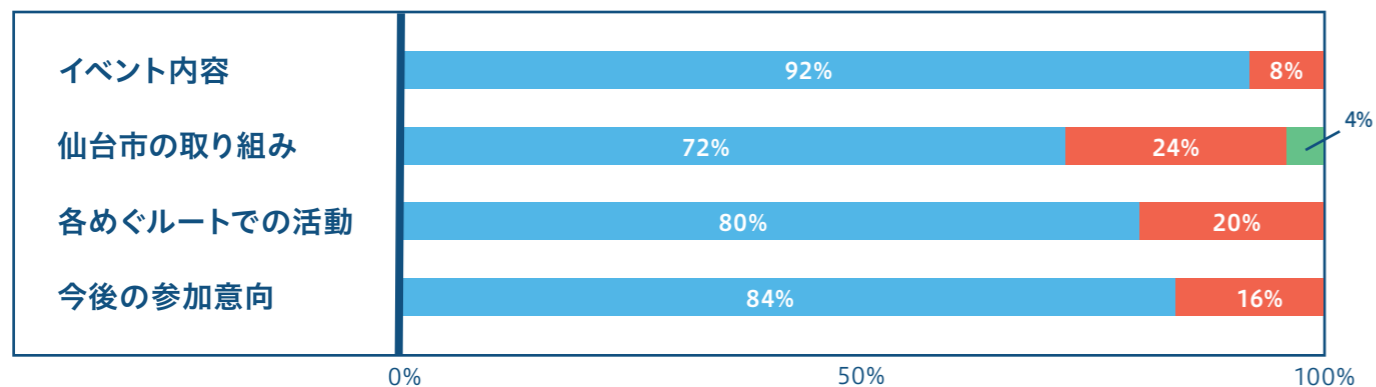


このイベントのどこに興味があり参加されましたか。



各種評価

■ 最高評価 ■ 高評価 ■ 中間意見 ■ 低評価 ■ 最低評価 ■ 無回答



チャレンジ発見!

2022  
**みんなの  
 せんだい  
 めぐり**

報告書

主催: 仙台市

仙台市まちづくり政策局政策企画課



# みんなのせんだいめぐり

## 開催趣旨

仙台市では、令和3年度を始期とする「仙台市基本計画2021-2030」を策定しました。  
この計画の推進の一環として、基本計画に掲げる「チャレンジ」をテーマに、  
さまざまな分野で活動している方のお話を聞いて体験しながら、  
今後のまちづくりで一人ひとりができることを見つけるイベントを開催しました。

「仙台市基本計画2021-2030」では、まちづくりの理念を実現するため、住民や仙台に関わるみなさまを中心に、多様な力を掛け合わせながら、仙台の特性を最大限に活かして重点的に取り組むものとして、8つの「チャレンジプロジェクト」を掲げています。

## まちづくりの理念

ザ グリーネスト シティー  
挑戦を続ける、新たな杜の都へ ～“The Greenest City” SENDAI～

## 仙台市基本計画 2021-2030

# 8つのチャレンジプロジェクト

### 1 杜と水の都プロジェクト

「杜の都」の風土と文化に巡りあえる都市空間をつくります

### 2 防災環境都市プロジェクト

持続可能でしなやかな都市環境をつくります

### 3 心の伴走プロジェクト

多様性を尊重し、あらゆる人が安心して暮らせる地域をつくります

### 4 地域協働プロジェクト

多様性を力に変える地域をつくります

### 5 笑顔咲く子どもプロジェクト

子どもたちの未来が広がる環境をつくります

### 6 ライフデザインプロジェクト

自分らしい生き方が実現できる環境をつくります

### 7 TOHOKU 未来プロジェクト

世界に発信できる東北発のイノベーションを生み出します

### 8 都心創生プロジェクト

人が集い、新しいチャレンジが生まれる都心をつくります

## イベント概要

## チャレンジ発見!みんなのせんだいめぐり2022

- |            |  |                              |
|------------|--|------------------------------|
| めぐルート<br>1 | 11月26日(土) 10:00-17:00<br>集合 市役所 会場 秋保コモンピング▶市役所      | テーマ “心地よく生きていく”ための新しい学校創り    |
| めぐルート<br>2 | 11月27日(日) 9:45-12:00<br>集合・会場 仙台多文化共生センター「研修室A」      | テーマ 地域防災を通じた“多文化共生”の推進       |
| めぐルート<br>3 | 12月3日(土) 9:45-12:00<br>集合・会場 仙台協立第7ビル定禅寺ヒルズ5階「IDOBA」 | テーマ 公共空間を活用した“楽しさ”の宝さがし      |
| めぐルート<br>4 | 12月3日(土) 13:00-16:30<br>集合 市役所 会場 まちづくりスポット仙台        | テーマ “地域のみんな”で育てるコミュニティとまちの未来 |



イベントの参加者は  
大学生を中心に中学生から社会人の方まで  
これからのまちづくりを担う若者です。

講師の方々のお話を聞いた上で参加者同士でも意見を交わしたり  
実地での見学やインタビューをするなど  
まちづくりを考えるきっかけとなるイベントとなりました。

チャレンジ発見!  
2022  
みんなのせんだいめぐり

めぐり



11月26日(土) 10:00-17:00

集合 市役所 会場 秋保コミンピング ▶ 市役所



テーマ “心地よく生きていく”ための新しい学校創り

内容

「すべての人が、自分の心に正直に挑戦し、輝ける世界」を目指し、既存の教育を窮屈に感じる中高生を対象として、新しい学校創り(AKIU SCHOLÉ)に挑戦されている伊藤さん。当日はAKIU SCHOLÉの「うどん作り」授業を見学し、授業後は子どもたちが“心地よく生きていく”ための取り組みや公教育のあり方について伊藤さんにお話しいただきました。

当日の様子

市役所からバスで秋保へ移動します



会場の秋保コミンピング



みんな好きな方法で  
うどんを作ろう!

手こねで作る!



AKIU SCHOLÉの「うどん作り」授業がスタート!

授業後は秋保を離れ、  
講義を行う会場へ



おいしくできました!



生地を切るの  
難しい...



足踏みで作る!



切り方にも個性が出ています!



講義では学校創りや教育についてお話しいただきました!



参加者と講師のやり取り



AKIU SCHOLÉの生徒さんとお話して、「ここはとても安心できる場所」と言っていました。AKIU SCHOLÉのような取り組みは公教育にすでに導入されたりしているのでしょうか?

AKIU SCHOLÉでの授業を通して生徒たちの反応を見たり、学校での出張授業にお呼びいただく中で、公教育にどうすれば取り入れられるのか、今はまだ試行錯誤しながら挑戦しているところです。



さまざまな学年の生徒さんが、AKIU SCHOLÉではみんな同じ授業を受けていました。分けたりはしないのでしょうか?

生徒たちそれぞれ授業への姿勢や感じ方が違って、その子に合わせたつもりでもその日の気分で無関心だったりするんです。だから授業は分けたりせず、(学年が違うからこそ)生徒たちが協力したり、教え合う良い関係が生まれることを期待しています。



参加者からの感想



学校生活を窮屈に感じていると聞いていた子どもたちがAKIU SCHOLÉでは生き生きと他の子と話をしていて、とてもすばらしい場だと思った。

民間教育について聞いたことはあったが、実際に現場を見る良い機会になった。子どもたちの居場所づくりの重要性を感じることができた。



講師のコメント



今回のイベントは(新しい人に会うという意味で)AKIU SCHOLÉの生徒たちにとって、また参加者のみなさんにとっても良い刺激になったと思います。「チャレンジ」することはとても大事なことです。「大変だな」「あんまり必要ない」なんて思う子もいます。だからまずは自分自身が心地よい環境に身を置くことが大切。そうすると何かやりたくなったり、気になるものや面白そうなものが見つかります。

小さなことでも生活に変化をつけると世界ってどんどん広がっていくので、「自分が安心できる場所を一つでもいいから見つけて、人生を楽しむ」という意識を大事にしてほしいと思います。

アキウ スコレー  
講師 伊藤 真結 氏 (AKIU SCHOLÉ 代表)

チャレンジ発見!  
2022  
みんなのせんだいめぐり

めぐり

2

11月27日 日 9:45 - 12:00

集合・会場 仙台多文化共生センター「研修室A」



テーマ 地域防災を通じた“多文化共生”の推進

内容

最近よくコンビニなどで見かける外国人の方々。「仙台は外国人が多いの?」「どここの出身の人が多いの?」など、菊池さんに身近な疑問からお話を伺い、同年代の外国人のみなさんと、誰もが安全・安心の地域づくりをテーマに話し合いました。外国語ができなくても大丈夫、共通の言語は「やさしい日本語」です。

当日の様子

会場の仙台多文化共生センター



参加者と外国人留学生でグループを作ります



講義はグループ内での対話を中心に行われました



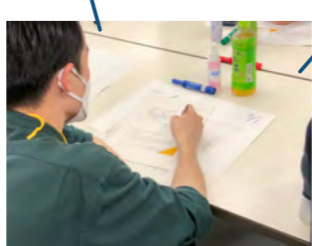
防災について皆さんで話し合ってみましょう!



私は非常食を常備しています



どうすれば外国人にも伝わる「やさしい日本語」になるかな?



当日の資料「やさしい日本語」のガイドライン

「やさしい日本語」のガイドライン

- 書くとき
  - ・ 伝えたい情報を整理して、一文を短く(主語と述語はひとつにする)。
  - ・ 結論や大切な情報は、なるべく文書の最初に書く。
  - ・ 重要な言葉はそのまま使う。必要に応じて補足情報を加える。
  - ・ 時間や年月日を外国人にも分かりやすく表記する(例えば、和暦よりも西暦)。
  - ・ 図やイラストを活用する。
  - ・ 文末を統一する。
  - ・ 漢字にはひらがなでルビをふる。外来語(カタカナ)、擬音語・擬態語も使わない。
  - ・ 文書全体のデザインにも配慮する(過度な記号の利用や、文字の強調は避ける)。

文化庁・出入国在留管理庁「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」  
「やさしい日本語—多文化共生社会へ」(発刊2016)をもとに作成

「やさしい日本語」のガイドライン

- 話すとき
  - ・ 説明は短く、簡潔に。(あいまいな表現、二重否定の表現は避ける。)
  - ・ 会話の途中で「分かりますか?」と確認する。分かっていないと思ったら、別な表現を使う。
  - ・ 相手の表情や反応を見ながら話す。
  - ・ ゆっくり、はっきり発音する。
  - ・ 資料や図を活用する。
  - ・ 難しい単語や言い回しは使わない。

文化庁・出入国在留管理庁「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」  
「やさしい日本語—多文化共生社会へ」(発刊2016)をもとに作成

参加者と講師のやり取り

以下の原文を「やさしい日本語」に直してみましょう!

震度は私の国では使いません。マグニチュードは使います。



講師 菊池さん



留学生Aさん

減災のための「やさしい日本語」

<原文>

今朝5時46分ごろ、兵庫県の淡路島付近を震源とするマグニチュード7.2の直下型の大きな地震があり、神戸と洲本で震度6を記録するなど、近畿地方を中心に広い範囲で、強い揺れに見舞われました。

(松田ほか2000「災害時の外国人に対する情報提供のための日本語表現とその有効性に関する試論」)

留学生Bさん



私は近畿地方がどこにあるかわかりません。

参加者Cさん



震度を伝えるのはやめよう。近畿地方は「大阪の近く」とか「日本の真ん中」の方がわかりやすいよね。

参加者からの感想



今までは災害対策といっても避難場所の設置や、個人レベルの準備の意識ばかりだったが、外国人の方にも地元住民として目を向ける必要があると感じた。

「やさしい日本語」をもっと身近なものにして、外国人への伝達の際に英語と織り交ぜて使うことで、多くの困っている外国人を助けられると思った。



講師のコメント



外国人留学生も含めて、参加者には積極的に意見交換をしていただきました。多文化共生のまちづくり、だれもが安全・安心な地域づくりに向けて、参加者のみなさんの様子がとても心強く感じました。「やさしい日本語」にも関心を持ってもらえて、うれしいです。

多文化社会では情報のかたちや届け方も多様化していく必要があります。外国人を日本社会のフルメンバーとして受け入れて、災害時だけでなく、普段から助け合える関係をこれからもつくっていきたいですね。

講師 菊池 哲佳 氏  
(公益財団法人仙台観光国際協会国際化事業部多文化共生課 企画係長)

チャレンジ発見!  
2022  
みんなのせんだいめぐり

めぐり

3

12月3日(土) 9:45 - 12:00

集合・会場 仙台協立第7ビル定禅寺ヒルズ5階「IDOBA」



テーマ 公共空間を活用した“楽しさ”の宝さがし

内容 賃貸不動産会社として仙台で50年の実績を持つ株式会社仙台協立の代表取締役を務める傍ら、一般社団法人定禅寺通エリアマネジメント代表理事としても「エリアの価値を高める」ため、様々な挑戦をされている氏家さん。グッドデザイン賞を受賞した「定禅寺パークレット」の仕掛けなど、これまで携わられたまちづくりに関するお話を伺いました。

当日の様子

会場のイノベーションプラットフォーム「IDOBA」



屋上はシェアスペースとして活用しています



まちづくりの事例として定禅寺ヒルズの施設を案内していただきました!

当日の資料(氏家さんが取り組むまちづくりのコンセプト)

定禅寺シリコンバレー計画

定禅寺通が事業と文化の集積地となることで持続可能な経済圏となる

未来のために良いまちをつくって行くことはとても楽しいです



氏家さんとともにまちづくりに取り組んでいる方々にもお話を伺いました

まちづくり事業は投資に近いですが、得られるものはたくさんあるので、長い目で見て取り組んでいます。



まちづくりを継続する上で大切なことですね。

参加者と講師のやり取り



自分たちで勝手に進めていると話されていた「定禅寺シリコンバレー計画」をはじめ、仙台を今後どのように盛り上げていきたいですか?

ただのにぎわいづくりではなくて、人や企業が集まって仙台のまちそのものが変わってくる、そんなまちづくりを20年ぐらいかけて実現したいです。



まちづくりなどのアイデアはいつどんなときに思いつくのですか?

会社にもあまりアイデアは出なくて、移動中とかが多いです。まちづくりに取り組んでいるといっても普段仙台にいなかったりして、日本中や海外を仕事で訪れている際にふとアイデアが出てきたりします。



参加者からの感想



「定禅寺シリコンバレー計画」について学び、仙台の中小企業が力を結集し、まちのために何かをしたいというお話にとっても魅力を感じた。

「大変さを楽しむ」ことが大事だと知り、これからの人生にプラスとなる考え方を学ぶことができた。話が楽しくて2時間があっという間だった。



講師のコメント



まちづくりに興味を持った若い方々とお話ができ、自分自身も刺激になりました。自分の中で少し漠然としていた将来の思い描くまちづくりの姿が、質問をいただいたり、話を聞くなかでまとまったなという感じもして、良い機会をいただけたと思っています。

やはり自分を含め、参加者の方々よりも少し上の世代が楽しそうに仕事をする姿を見せること、「まちづくりに興味を持って」と言うのではなく興味を持たせるような動きをしていかなければいけないと感じました。

講師 氏家 正裕 氏 (株式会社仙台協立 代表取締役社長)

# みんなのせんだいめぐり

めぐりルート

4

12月3日(土) 13:00-16:30

集合 市役所 会場 まちづくりスポット仙台



## テーマ “地域のみんな”で育てるコミュニティとまちの未来

### 内容

「何ができるかは分からない。でも迷ったら面白い方」をモットーに、地域や世代を超えて人々が集う場づくりや、行政の施策に若い世代の感性を反映させる活動をされている岩間さん。普段岩間さんが活動の場としている「まちづくりスポット仙台」を訪問し、当日開催されている「ランチオーガニックマーケット」の出店者のみなさんにお話を聞いてみました!

## 当日の様子

市役所からバスで  
ランチ仙台へ移動します



ランチ仙台施設内にある会場のまちづくりスポット仙台



ランチ仙台は芝生が広がる  
開放的な空間です!



みんなでマーケットの出店者  
さんにインタビューしよう!



当日の資料(ランチオーガニックマーケットの合言葉)

■合言葉もみんなで考えました

1. 月に1回、オーガニックを考えよう
2. 人に優しく、地球に優しく
3. 東北のとおきをおきを楽しもう
4. 共感する皆が挑戦できる居場所をつくろう
5. SDGsを体感しよう



商品で大切にしている  
ことはなんですか?



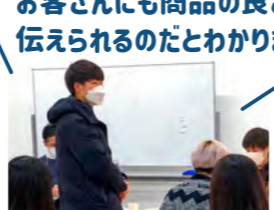
生産者に直接会いに行って  
信頼できる関係を作っています



インタビューの感想を  
みんなと共有!



生産者との深い関係があるから、  
お客さんにも商品の良さを  
伝えられるのだとわかりました!



## 参加者と講師のやり取り



マーケットの出店者さんは自分の商品に対してたくさんの知識を持っていて、だからこそ仕入れ先やお客さんに商品のこだわりを強くアピールできるのだとわかりました。

マーケットは初めのうちは手探りでスタートしたので、まとまりがなかったんですよ。それが何回もやっていくうちに出店者さんとの間で合言葉が生まれたり、商品に対して強い思いを持った方が増えてきました。



マーケットは出店者さんとコミュニケーションが取りやすく、近い距離で話すことで購入しやすいと感じました。

マーケットは「会話が生まれる場」を目指していて、会話が増えるとお客さんはその商品に携るさまざまな人に想像力が及ぶようになります。そういった優しさや思いやりが生まれる豊かなコミュニティになっていけたらいいなと思っています。



## 参加者からの感想



仙台のまちづくりについて、インタビューを通して実際に  
出店している方々からの話を聞くことができ、仙台市につ  
いて深く考えるきっかけとなった。

コミュニティ形成の課題や解決方法を知りたくて参加した。  
(まちづくりスポット仙台は)多くの繋がりをつくり、高齢社  
会における社会参加の機会創出にもなっていると感じた。  
今後自分でも理解や解決策を深めていきたいと思う。



## 講師のコメント



参加者のみなさんが(ランチオーガニックマーケットの)出店者さん一人ひとりから丁寧に話を聞いている姿を見て、仙台のまちづくりのポテンシャルを感じました。

「チャレンジ」というとすごくドキドキしてしまうと思いますが、まちづくりスポット仙台もランチオーガニックマーケットも最初は自分たちが大切にしている品を売りたい、思いを伝えたいといったきっかけで始まりました。私たちも「いつでも誰でも来てください」という場づくりをしていますので、まちづくりの最初の一步を踏み出してみてもらいたいと思います。

講師 岩間 友希 氏  
(特定非営利活動法人まちづくりスポット仙台 ディレクター)